



福津市でも水害は起きている

平成 25 年の大雨では、西郷川の護岸が崩落して道路が通行できなくなるなど、市内でも被害が発生しました。また、平成 30 年 7 月の西日本豪雨でも、道路の一部通行止めや家屋への被害が発生しました。

ここ 10 年間では、福津市だけでなく全国の 97% の自治体が水害の被害を受けています。「災害は必ず起こるもの」と考え、自分にできる減災を考えましょう。減災の考え方は、自分で自分を守るという自助の考え方が基本です。そのためには、災害に対して真剣に向き合うことが大切です。



▲令和 2 年 7 月豪雨で浸水し倒壊した熊本県球磨村の家屋【写真提供(一財)消防防災科学センター「災害写真データベース」】

近年、同じ場所に猛烈な雨を継続して降らせる線状降水帯が発生し、都市部や山間部を襲う集中豪雨が発生しています。雨量が多くなる梅雨を迎える前に、日頃の備えを確認し、いざというときに適切な行動がとれるよう心構えをしておきましょう。

増加する局地的な大雨

近年、世界的に水害が多発しているように、日本でも局地的な大雨が増加傾向にあります。局地的な大雨などが引き起こす水害による被害を最小限に食い止めるための対策が必要です。

水害とは

水害とは簡単にいうと、多量の降雨によって川などの水が多くなりすぎてあふれ、氾濫して起こる災害のことです。例えば、洪水や浸水、冠水に加え、土石流、土砂崩れ、山崩れ、崖崩れなども水害に当たります。

水の氾濫は川ばかりに目が行きがちですが、実はそれだけではありません。川の水が堤防を越えたり、堤防を壊したりして氾濫する外水氾濫(洪水氾濫)の他に、雨水などを川や下水道で排水しきれずに氾濫する内水氾濫があります。内水氾濫は都市でよく起こることから、都市型水害とも呼ばれています。

なぜ水害が起こるのか

水害は、主に次の 4 つの原因で起こります。

- 台風や集中豪雨などの天候
- 河川流域や低地といった元々の地形
- 治水や排水の不備
- 人工的に作り変えられた土地

各地域によって、水害の原因や起きやすさ、備え方が変わってくるため、自分の住む地域の情報に関心を持つことがとても大切になってきます。災害に関する情報は他人任せではなく、自分自身で正確な情報を得ることが備えの第一歩になります。

防災マップで情報を得る

水害はいつやってくるかわかりません。市では現在、総合防災マップの更新作業に着手し、今年度中に最新版を全戸配布する予定です。これを活用し、地域に存在する危険箇所を把握して、日ごろの備えと地域の自主防災活動に取り組みましょう。



カメラアホールを指定福祉避難所に指定しました



5 月 1 日に、市文化会館カメラアホールを、ふくとぴあ、市中央公民館に次ぐ、指定福祉避難所に指定しました。指定福祉避難所は、医療的ケアを必要としない要配慮者と、その家族を対象とする避難所です。

内水氾濫

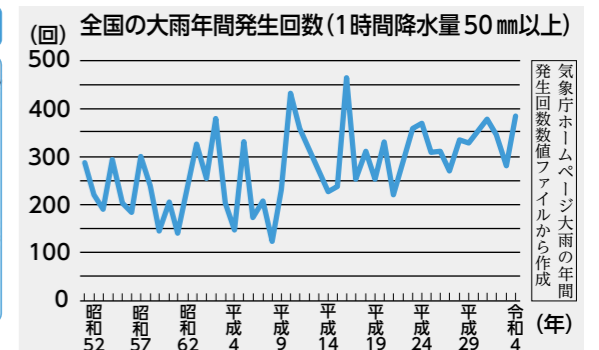


▲川などから排水しきれず氾濫

外水氾濫



▲川の水が堤防を壊して氾濫



水害に備える

自助

普段からできる取り組み

- ① 天気予報や気象状況に気を付ける
- ② 非常食や持ち出すものなどを準備しておく
- ③ 避難場所や避難経路を確認しておく
- ④ 大雨や台風に合わせて家の周りを点検整備しておく

緊急時の取り組み

- ① 市役所、消防署、消防団などからの警戒・避難命令などには速やかに従う
- ② 避難時は早めに、みんなと一緒に行動する
- ③ 持ち出す荷物はなるべく少なく、身軽に動かせることを優先する
- ④ お年寄りや子どもを優先し、落ち着いて行動する
- ⑤ タオルを使って安否を知らせましょう
門扉にかけたり… 郵便受けにはさんだり…

家族での備えや確認しておくこと

- ① 自宅の周りで、災害時に危険と思われる場所はどこか
- ② 自宅の被害対策（水道、電気、ガス、トイレ、ガラス飛散）
- ③ 家の中ではどこが一番安全か（家具の少ないスペースはどこ？）
- ④ 家族間の連絡方法と最終的に出会う場所が分かっているか
- ⑤ 避難するとき、誰が何を持ち出すのか、非常持ち出し袋はどこに置くか
- ⑥ 地域（自主防災組織など）の防災活動に参加しているか

共助

防災ワンポイント 家庭でできる浸水対策

問い合わせ 市下水道課 ☎62・5069

豪雨のときに、宅内のトイレなどの排水口から、ポコポコと音がすることがありませんか。豪雨で急激に水位が上昇し、下水道管が満水の状態になることで、下水が逆流し、トイレや風呂場、洗濯機の排水口などから水が吹き出ることがあります。そのようなときは、ビニール袋に水を入れた「水のう」を置くと、逆流を抑え、思わぬ場所からの浸水を防ぐ効果があります。



大雨で川を流れる水が急に増え、その水が堤防などを越えてあふれ出ることを洪水といいます。洪水が起きると市街地では道路が冠水して交通が麻痺したり、住家の床下や床上浸水、がけ崩れなどのさまざまな被害が生じます。

近年では毎年のように、豪雨や台風のニュースが飛び交い、洪水の発生件数は年々増加しています。令和3年7月には、静岡県熱海市で大雨による土石流が発生し、多くの犠牲者を出しました。

国土交通省では、集中豪雨や台風が多い6月から10月にかけてを出水期として、洪水に対する備えを呼び掛けていますが、大切なことは、一人一人が洪水の危険性を認識し、身を守る意識を持つことです。家族でも、その点をよく話し合っておく必要があります。



▲令和2年7月豪雨で崩落した大分県日田市の道路【写真提供（一財）消防防災科学センター「災害写真データベース」】

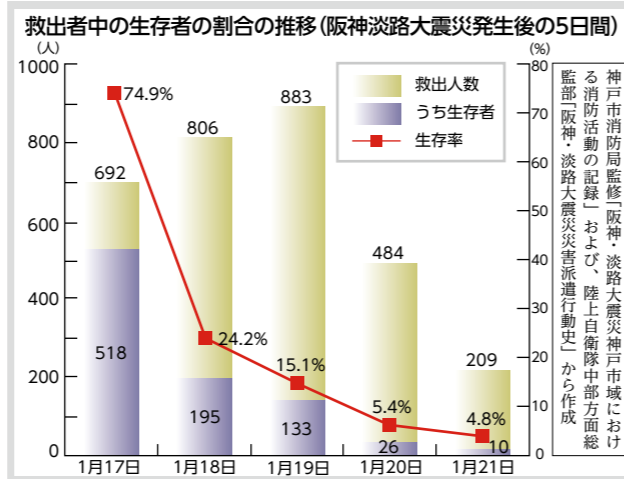
地域を守る **公助**

市の消防団は水防団としての役割もあります。毎年宗像地区消防本部などと合同で水防訓練を実施し、河川氾濫など万一の際に被害を最小限に食い止めるための取り組みを行っています。

また、大雨や台風などにより避難情報が発令された際に避難場所などの広報活動や救援活動などに取り組んでいます。

近年、全国各地で重大な災害が多発していて、平成30年7月の豪雨災害では、広範囲にわたり甚大な被害が発生しました。今後ますます多様・大規模化することが懸念される災害に対応するためには、地域防災力を一段と高める必要があります。

広域な大規模災害が発生した場合、自衛隊や警察、消防などの公助では対応しきれないところが多く出てきます。その際、まず初期対応ができるのは、地域に密着している人であり、その中心的役割を果たすのが消防団です。公助に加え「自助」「共助」の3つの働きが一体として機能することで、地域防災力がより一層発揮され、被害の軽減を図ることができます。



消防団は地域防災の核

防災の要は地域にあります。災害の規模によっては発災直後の初動が重要となり、地域住民同士の助け合いや人命救助、初期消火への努力が被害の軽減につながります。その中で、地域に密着した活動を続けている消防団は地域防災の核といえます。消防団は消火活動だけでなく、地震や風水害等の救助救出活動や避難誘導、災害防ぎょ活動なども担っており、大雨で河川増水の危険が高まる出水期に向けては土のう作製やシート張り工法などの訓練を行い、有事に備えています。

福津市消防団統轄副団長 水上 雅博



消防団員募集中!!

助け合う **共助**

大地震などで大規模災害が発生すると、火災の同時多発や建物崩壊、道路の寸断などで防災機関が十分に機能しなくなることがあります。その場合、各地域の被災者、負傷者を助けることは困難となるため、近隣住民、地域ぐるみで一致協力して防災活動を行う「共助」が重要となります。

「自分たちの地域は自分たちで守る」という考えで隣近所が協力し、地域が一体となって防災活動を行う団体が「自主防災組織」です。自主防災組織の行う訓練は、防災活動に関する知識や技術を学ぶよい機会です。ぜひ参加しましょう。



全市一斉防災訓練

昨年の11月5日(土)、家庭や地域、学校、事業所など、市内各所で防災訓練が実施されました。各地域の郷づくり推進協議会が主体となって実施された防災訓練では、バケツリレーや救急救命講習、水消火器を使った消火器の使い方の確認などが行われました。

今年度も「世界津波の日(11月5日)」以降の最初の土曜日、11月11日に全市一斉防災訓練を実施します。皆さんもぜひ訓練に参加してください。

